

私のドライアイ診療①

— 山田眼科 —



大谷地 裕明 Hiroaki Ohyachi
医療法人社団 山田眼科 理事長

診療時間：月曜日、火曜日、木曜日、金曜日
9：00～12：00、14：30～17：00
土曜日
9：00～12：00
休診日：水曜日(予約外来のため)・土曜日午後・日曜日・祝日
〒078-8234 旭川市豊岡4条3丁目3-17
TEL：0166-31-6222

当院のドライアイ診療の特徴

涙点プラグ治療	血清点眼治療	サプリメント	実用視力検査	その他
○		○		

調査後にわかったドライアイ診療の必要性

当院では、白内障手術の実施件数が多く(2016年：1,780件、2017年：1,516件)、術後の患者さんを多数診療しています。白内障術後のドライアイについては耳にしたことはあったものの半信半疑でしたが、眼科三宅病院の三宅謙作先生を中心としたDASIS研究グループの報告をみて、本当にそれほど多くの患者さんが術後ドライアイを発症するのか自分で確認しようと考えたのです。

当院の調査の結果、術後1ヵ月以内に涙液層破壊時間(tear film break-up time：BUT)を測定した患者さんの6割は5秒を満たさず、ドライアイ診断基準に合致する患者さんが多く存在していることがわかりました(図1)。この結果は、これまでの感覚を大きく上回る割合でした。それをきっかけに、私も術後ドライアイを見逃さないよう意識して診療を行うようになりました。この変化には、私自身の白内障手術後の経験も影響しているのではないかと考えています。その実、2年前に私は白内障手術を受けたのですが、術後に異物感を感じたためBUTを測定してもらったところ、短縮していることがわかったのです。その時処方されたジクアホソルナトリウム点眼液を

現在も愛用しています。

疑えば染めて BUT 測定を

医師のドライアイへの意識が高まれば、診療時に疑いがみられた患者さんに、おのずとBUTを測るようになるのではないのでしょうか。私自身も、調査をはじめたころは染色を手間と感じ、染めて角膜障害だけをみていましたが、調査後は必ずBUT測定を行うようになりました。

